

私が持っている物事の見方は、その時々感情や環境、政治や経済で二転三転します。昨日まで仲が良かった人と、今日はケンカをしたり、時にはその価値観が暴力となつて他を攻撃することもあります。このような私にいかにか私が自分中心に物事をとらえているか、を気がつかせてくださるのが阿弥陀様という仏様です。

アフガニスタンで医療活動を行い、福岡に本拠地があるNGOの「ペシヤワール会」をご存知ですか？会の代表である中村哲さんが1984年アフガニスタンに赴任し、今年で30周年を迎えます。その活動は、お金や政治的方法で援助するのではなく、とにかく現地で井戸を掘ったり、医療を施すという「現地主義」。「みんなが行くところには誰かが行くから行かなくてもよい。誰も行かないところこそ行く必要がある。」と中村さんはおっしゃっています。それは「みんな同じことを言い、同じ方向に動き始めるとそこには虚構があるのではないか」ということを現場で感じられて生まれた言葉だそうです。日本に流れてくるニュースはどれも似たり寄りたり。私達が新聞・テレビ等で知らされているアフガニスタン情勢はアフガニスタンのほんの一部なのだと思えていたいただきました。本当のことと思っていたことが実は違う。真実を見る、聞く、知る、ということはとても難しいことです。



阿弥陀様の光は国も人種も越えすべての生きているものへ、まさに太陽の光のように平等に降り注がれています。光に照らし出された自分の影。その影は自分中心に物事を見ている私の姿。自分の影を見たときに、私は初めて自分の中の闇に気がつかされます。私が真実だ、と思っていることは本当に真実なのでしょうか？

アフガニスタン情勢に限らず、日本の中でも原発や復興支援等いろいろな問題があります。何が問題の本質か、自分には何ができるか、をしつかり考え取り組んでいきたいと思っています。